

(4) 座長・アドバイザーへのアンケート

平成22年2月に、平成18年度採択校6校に関わったエコ改修研究会座長、環境教育研究会座長にアンケートを実施した。環境教育研究会の座長が学校長の場合は、アドバイザーに依頼をした。合計14名にアンケートの依頼をし、12名から回答を得た。

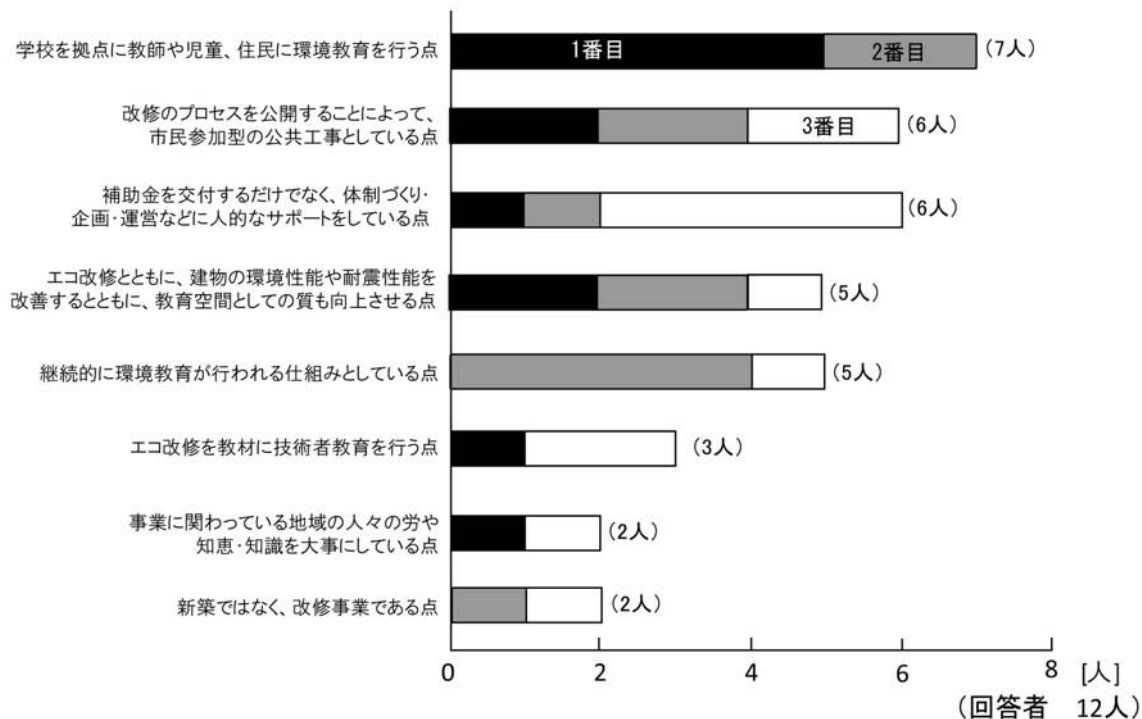
アンケートの内容は以下の項目に分かれている

1. 事業について
2. 事業への意見・感想
3. サポート本部の支援について

1 事業について

回答者数 12名

(1) 本事業について評価できること (1番目から3番目を選択)

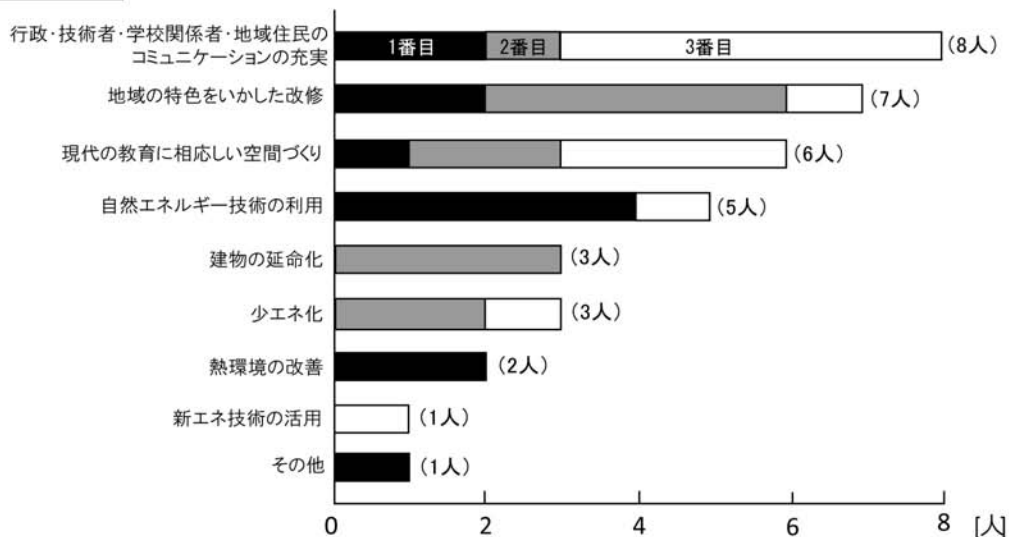


1 事業について

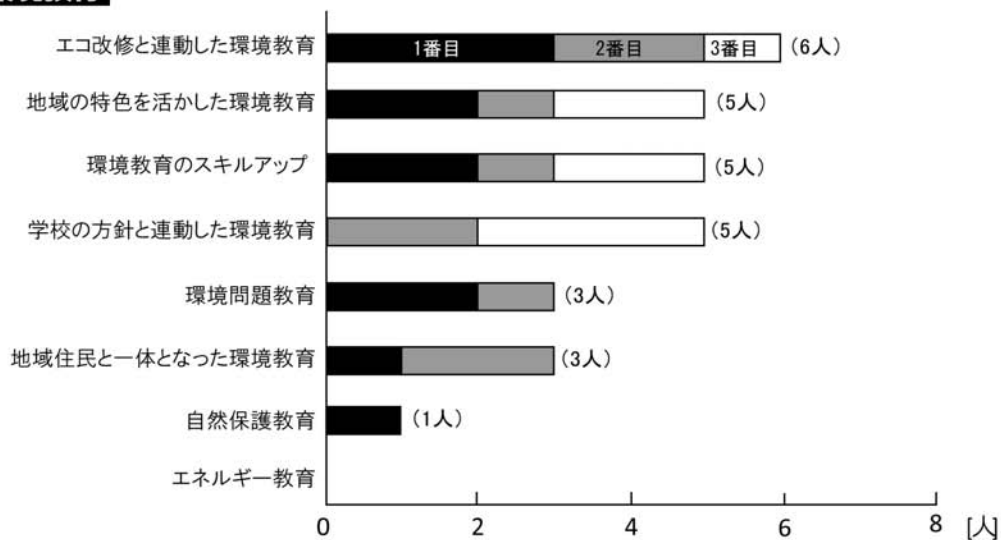
回答者数 12名

(2) 本事業において重要だと思うこと (1番目から3番目を選択)

エコ改修



環境教育



2 事業への意見・感想

・エコ改修と連動したエネルギー環境教育を、先生方がよく教材研究されて、熱心に取り組まれたと思います。エコ改修の前から、総合的な学習で取り組んでいたこともあり、改修にからめた総合的な学習の授業実践は重層的で非常に深いものになったと思います。学習を通して身につけた子どもたちのエコ改修に対する知識は、大人顔負けのものばかりで、実体験や調査活動を通じて、本物の学びになったと思います。また、このエコ改修と環境教育事業を通じて、教員たちがともによりよい授業づくりを目指して協同研究に取り組んだことにより、校内の教員研修も非常に活発になりました。夢のような設計プランが、予算などさまざまな状況によりなかなか実現しないこともありましたが、設計担当の方、先生方や地域のみなさんが知恵を出し合い、新しい学校作りができたと思います。自然エネルギーを使うことは、コストがかかるものなので、もっと補助金を出して、推進していただけるともっとたくさんの学校に広まると思います。

・3年間本事業に関わり、学校という建物における改修の新たな視点、環境教育の大切さなどをあらためて実感致しました。また、地域の学校関係者や建設関係者など多くの方々と人脈形成できたことも財産となり、自分自身にとっても大きな成果を得られたと思います。自分の住む地域に貢献できたという喜びもあります。しかしながら、本事業がまもなく終わるにあたり、今後のモデル校における環境教育、エコ改修効果の検証など、多くの課題も残されていて、不安もあります。一応、事業の中では「事業終了後も継続的に環境教育が行われる仕組み」を謳っていますが、事業終了後は各モデル校に一任するのではなく、資金面でのサポートは無くとも、学校関係者・設計者・担当事務局・サポート本部・各座長やアドバイザーが定期的に集まり、意見交換や経過を報告する仕組みは残して欲しいと思います。

・「学校エコ改修と環境教育事業」の取組には、事業を行う自治体と担当課に多大のエネルギーが求められます。担当者の環境教育への思いと自治体の方針が、成果を左右すると思われれます。小規模の自治体では、環境教育と改修のプログラムの両者を連携して行える担当者は得難いと思われれます。結局は、事務局をコンサルに任せる結果になりがちです。担当課の育成は、事業の思いの継続を願う時に、必要かもしれません。

・私自身がとても勉強になりました。本事業に参加後、本業のデザインやものづくり教育に「触れ

る環境教材」や「温熱環境の視点」を意識して取り入れています。従来の単なるハコモノ補助金事業とちがって、教育現場・環境教育と絡んだ公共工事の建設プロセスの透明化は、温度や熱（顕熱・潜熱のうち、とくに潜熱）、地球環境、さらにはこれまで社会的通念として観る/ディスプレイするものではなかった建設現場にスポットを当てた点で大きな意味を持つと思います。今後も継続して「改修後その後」の情報発信を望みます。最後に：設計者に相応の①設計期間（プロポーザルで設計者決定後少なくとも半年）と②経費の確保・事前告知すれば、学校（生徒・教職員・保護者・地域）・施主（自治体）・設計者・施工者が四位一体となったフェアで納得のいく成果があがると思います。その仲介役としてのサポート体制の更なる充実を望みます。

・ある意味エコ改修（ハード）は一過性である。継続的な環境教育を目指すのであれば、やはり文部科学省（教育委員会等）との連携が必要だと思う。予算面でも同じことが言え、エコ改修は大事だが、現状から言えば、耐震改修の方が優先順位は高いと考えます。耐震とエコを結びつける仕掛けについて、建築家側からの提案が欲しいと思います。

・学校エコ改修事業がもっと一般に認知されるようになるのと良いと思います。改修した学校をテレビドラマやCMで使ってもらったら如何でしょうか。

・木造の小規模校の改修という例で貴重だと思われれます。今後の生かし方が重要で、学校教育委員会以外の他のサポート体制づくりが急務と思われれます。いずれにしろモデル校においては、今後は楽しみです。

・対象校のような小規模校で、よく3年間の活動が実施できたと思います。地域との連携がうまくいった例、小規模校での事例として貴重だと思います。

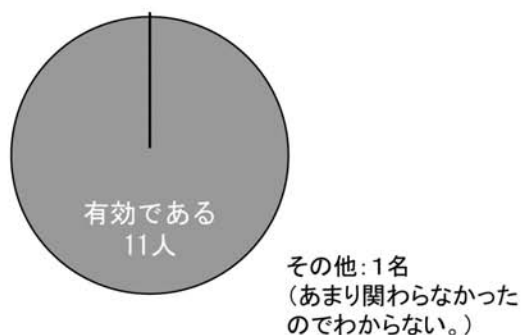
・問題を多面的に解決しようとするユニークで有意義な事業だと思います。手法は学校改修以外にも応用可能であり、様々なアイデアに対して展開すべきではないかと感じた。サポート本部は非常に努力されており、よく分析も行われていた。事業が継続、発展することを希望しています。

・住民、学校関係者は積極的に参加していただいたが行政の参加度に疑問がありました。

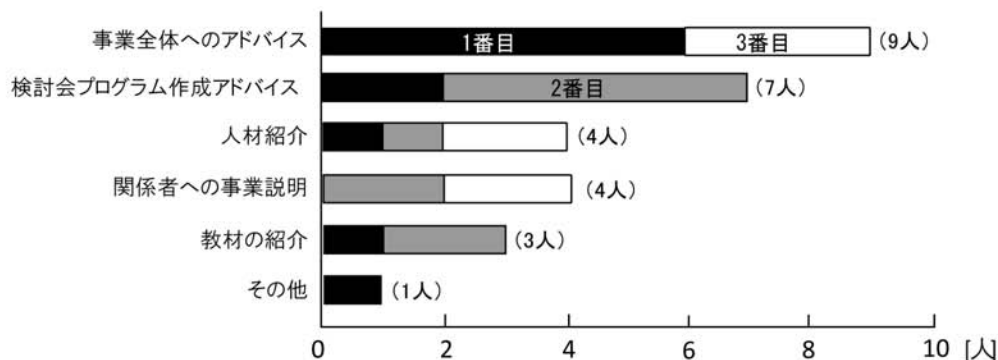
3 エコフローサポート本部について

回答者 11名

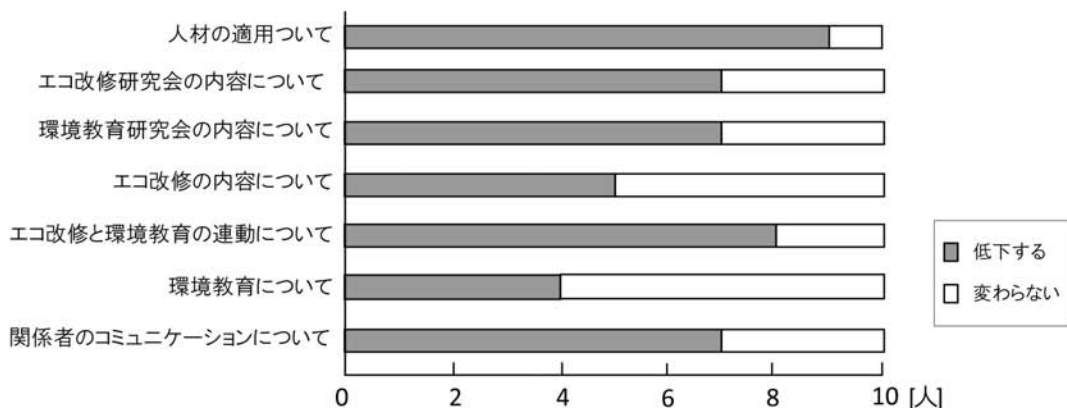
(3)エコフローサポート本部のサポートについて



(4)有効であったサポート内容について (1番目から3番目を選択)
 ((3)で有効と答えた人に質問)



(5) 本事業を行うにあたって、サポート体制がなかった(サポート本部がない)場合、研究会におけるa～dの「質」はどのようになったと思われますか。
 「向上する」、「変わらない」「低下する」の中から当てはまるものを選んでください。



サポート本部の支援への要望

- ・他のモデル校で実施した検討会の資料などを提供してもらえると非常に参考になったと思います。
- ・改修後の継続的なサポート、情報発信；理想から言えば 2050 年まで。